



第119号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井義雄
 編集人 小会報編集委員 幸雄
 印刷所 須坂新聞社

所感

上高井教育会長 小林義雄



先生方のご協力により教育会の諸事業が順調に執行されていることに對して心より感謝申し上げます。

さて、週刊朝日は六月十五日に「一\$一〇〇円の襲来!? 恐慌は回避できるか」と題した緊急増刊を出しています。これに象徴されるように、貿易摩擦をめぐる国際的な問題は日本社会に危機感と不安をもたらしています。

このことについて昨年四月末にNHKが特集番組として放送した「世界の中の日本」の中で磯村キヤスターは「私は、現在日本が直面している状況は、近代日本が直面した第三の国家的危機、ナショナル・クライシスだと考えま

す。古臭い表現を使えば「困難」といっていいでしょう」といっています。そして、同じ番組の「国際国家へのシナリオを考える」というしめくりの討論の中で、阪大の山崎正和教授は「私は日本が国際化をするということ自体が、世界の歴史の中で先例のないことになると思うのです。……ところが、かつて国の地位がかなり高まり、経済的に強くなった国が、自分の社会のほうを開いて、世界のほうに調子を合わせようではないか、と言いつつ出たことは世界の歴史の上で一度もないんです。……このこと自体が私は日本の世界的な実験であり、貢献だと思っています。」と述べています。

このことを、山崎教授は、「日本文化の世界的実験——第二の開国をめざして」という論説で発表しておられます。そして、その結びを「自己像の再発見」として、「いま最大の急務は、日本人の自己像

行を山崎教授のいわれる「日本人の自己像の再発見」と重ねて見ますと、伝統的な日本人の自己像、即ち、不易なるものを見直し、世界との交渉の過程で発見されるであろう新しい自己像が流行であろうと思えます。現実に私たちが不易なるものとして、体得してきた「勤勉」という点からは国際的には認知されない状況もできています。今日の日本社会の状況は、かつて美德とされてきた倫理観が産業主義と国際化の波によって空洞化されてきているように思っています。ここであらためて、私たちは不易なるものは何かということ問い直し流石となるものを見定めなければならぬと思うのです。

かつて、私たちの先輩は明治十八年に明治維新の熱情をもって本教育会を設立されました。そして、明治維新という第一の国家的危機と第一の開国を乗り越えてきました。さらに、世界第二次大戦後の第二の国家的危機を乗り越えて、現在の繁栄をもたらしました。この繁栄の原動力となったものが、初等教育の普及と水準の高さであることは、国内のみでなく国際的にも周知の事実であります。私たちが明治維新に匹敵する熱情をもって第三の国家的危機と第二の開国といわれるこの時代の教育のあり方を追究し、二十一世紀をなう子ども教育にあたりたいと思います。

須坂市本郷町にある湯殿山講で、毎年三月十五日に湯殿山神石碑の前に掲揚される幟（小学第二教則第二級卒業直幅〇・五二尺、木綿製で五・三〇尺の竹竿につけて掲揚される。幟は大正五年、眞木序の揮毫により製作されたものである。眞木序は、大正十三年十月二十七日、享年五十六

才で逝かれた人であるが、日

（小学第二教則第二級卒業直幅〇・五二尺、木綿製で五・三〇尺の竹竿につけて掲揚される。幟は大正五年、眞木序の揮毫により製作されたものである。眞木序は、大正十三年十月二十七日、享年五十六

教育会だより

- 4. 7 理事長選挙・第三回選挙管理委員会
- 5. 11 副理事長・常任委員・監事・信教常任委員
- 5. 20 信教代議員の選挙・第五回選挙管理委員会
- 5. 20 研究委員会総会・於 須坂小学校
- 5. 20 講演会 中心講師・三枝孝弘先生（埼玉大学教授）
- 5. 20 演題 「よい指導」の成立を考える
- 5. 20 教研三団体結成会 於 教育会館
- 5. 20 新任者会員歓迎会 於 教育会館新任者会員21名
- 5. 20 同好会（A・B）発足会 於 須坂小学校
- 5. 20 上高井教育会定期総会・講演会 於 須坂市公民館
- 5. 20 〇61年度会務報告・決算
- 5. 20 〇61年度事業計画・予算の承認
- 5. 20 〇会員意見発表
- 5. 20 「ブラジルの子どもと須坂の子ども」
- 5. 20 堀込明紀教諭（墨坂中）
- 5. 20 「自分を知るということ」
- 5. 20 牧 美雪教諭（栗力丘小）
- 5. 20 講演会 世界史における「東洋」の現代的意義。
- 5. 20 筑波大学教授 高橋 進先生
- 5. 20 第十一回上高井教育会教育懇談会

郷土の文化財 ⑦⑧

湯殿山神の幟

靈雨洽萬物 大正五年

神徳覆天地

須坂市本郷町にある湯殿山講で、毎年三月十五日に湯殿山神石碑の前に掲揚される幟（小学第二教則第二級卒業直幅〇・五二尺、木綿製で五・三〇尺の竹竿につけて掲揚される。幟は大正五年、眞木序の揮毫により製作されたものである。眞木序は、大正十三年十月二十七日、享年五十六

今年の研究の方向

一 研究テーマ・研究内容をよりどころに 自らの授業を深める中で

研究委員長 竹前 稀 市

いかなる指導研究も、その推進の最も大事な基盤は、私を願って「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」というテーマを設定し、二年次の研究には、研究の方向は、まず自らの授業がどうあるかときびしく問いつける中にあると思う。

よく授業の主人公は、子どもたちであると言う。子どもたちが主人公であるから、学習は、子どもたちが自らしなければ学習したことにならないと言う。では、本当に子どもたちが主人公の授業とは、どういう授業をいうのだろうか。日ごろの授業をふりかえってみると、例えば、「ハイハイ」と先をあらそって活発に発言し、リレー式に多くの子どもが発言している授業。発言の得意な子どもが中心になって進められている授業。「私は」と思います。どうですか」「いいです」とある型の中で進められている授業。子どもが自主的な活動を重視し、子どももまかせの授業。活発な発言は見られないが、子どもが授業の中に深くはいるが、それを忘れている授業。等、色々な様相の授業が頭に浮ぶ。授業とは一体なんなのか。授業が成立するとはどういうことなのか。こんな基本的課題を思うのである。

私たちは、授業の質的な深

評価し、評価のあり方を究明する。このいずれの研究方向も「子どもがねばり強く自己形成していくために」という前提があり、これらが本年度の中心的課題である。しかし、昨年度の反省の中で、研究テーマ・内容に対して、実際の授業は、なかなか対応できない。それなるが故に、子どもの心をしっかりとつかみ、子どもを育てる授業実践が強調された。授業を組織するのは、教師自らであり、子どもの学習をきびしく組織した時に授業の成立が期待できる。私たちは、不断に学び、自らの授業を問いつつ真に子どもが主人公となる授業の成立を求めたい。そして、一人一人の実践の中から生まれる力を結果としてテーマに迫る研究の推進を期待するものである。

同好会へのいざない

同好会長 大森 健 嗣

本郡の同好会は教育会の重要な事業であり、各会がそれぞれの歴史と伝統をもって運営されてきた。また、講師には得難い立派な先生においでいただき質の高い、内容の濃い研修をおこなってきている。

本年度も十三の同好会が発足し、約68%の会員が加入した。教師として、人間としての教養を深め、資質の向上を計る場としたい。左に各会の

- 文学 遠藤周作「地なり」
- 「影法師」等の読み合わせ
- 「月光ドミナ」の作品研究
- 講師、安良岡康作先生
- 音楽 児童発声・合唱の研究
- 講師伊藤 温先生、打楽器奏法実技、リコーダー・アサンブル、中世音楽研究
- 地歴 臨見「須坂市の土蔵造り屋」、夏季巡検「福島県

特殊研究者・県外視察者		信教・特殊研究者		研究テーマ	
氏名	学校名	氏名	学校名	研究テーマ	所属
喜多方	講師市川健夫先生	臨見	「米子不動」、近世文書講習会、会員研究発表会	不動信仰と修験	東京
信州社研支部	研究発表会	浦井	二夫	「米子不動寺」の年中行事を通して上高井地方の幕末・明治維新史の研究	東京
哲学	「ソクラテスの弁明」	丸山	文雄	「嬰宴」の読み合わせ、夏季講演会、講師西谷裕作先生	東京
技術家庭	コンピュータ研修、手芸・調理・食事マナー講習、明治製菓工場見学	伊藤	礼子	小布施中	東京
書道	講師北島 茂先生(交渉中)各自課題、「法帖」練習、夏季講習、特別錬成会、会員作品展	西澤	政義	常盤中	東京
体育	水泳実技講習会、陸上競技指導者講習会、エアロビクス・ジャズ体操実技講習会、スキー実技講習会	栗外視察者	学校名	研究テーマ	所属
美術	陶芸講習、夏季絵画講習会、講師福井敬一先生	山岸	信之	栗ガ丘小	東京
版画技法講習会、七味温泉スケッチ会、雪景色写生会	西沢	佳代	栗ガ丘小	障害児教育	東京
俳文学 兼題による作品研究	竹内	くみ子	高山小	国語教育について	東京
夏休み吟行または講師(未定)による作品研究	有賀	泰司	高山小	視聴覚教育について	東京
教育心理 各種諸検査・心理テストの実施・結果の考察と活用、一人ひとりを生かす指導法、テキスト読み合わせ	中島	幸一	須坂小	古美術研究	東京
カウンセリング テキストの読み合わせと事例研究、夏季講演会と指導、講師筒井 健雄先生	河合	ちほえ	須坂小	奥の細道をたずねて	東京
算数数学 松林 大先生の論文読み合わせ、夏季講演会	黒岩	文恵	小山小	個の教育	東京
理科 野鳥観察会、植物観察	岩倉	由美子	小山小	体育科における指導	東京
研究科 五味池付近綜合調査、水生昆虫採集研究会	石井	光男	森上小	生活科についての研究	東京
オリオン工場見学、岩石講習会	小林	裕	森上小	生活科についての研究	東京
	山岸	深志	日滝小	美術教育を先進校に学ぶ	東京
	北島	英巳	日滝小	美術教育を先進校に学ぶ	東京
	村松	和子	豊洲小	特活の授業のあり方について	大阪
	斎藤	章子	豊洲小	合科総合的学習のあり方	東京
	大映	栄治	井上小	学級経営の評価のあり方	千葉
	斎藤	誠吾	高甫小	交通安全教育の取り組みと指導のあり方	新潟
	橋本	真弓	仁礼小	子どもが主体的に取り組む授業の方法(発声等)	新潟
	志水	みつ子	仁礼小	音楽教育―基礎的な学習の方法(発声等)	新潟
	青木	さと子	豊丘小	音楽教育について	東京
	牧	康夫	小布施中	期待される地域の子どものめざす「道徳」	東京
	清水	眞	高山中	スポーツ障害の基礎研究の現状千葉中学校におけるパソコンを使った教育の現状	東京
	平林	博	常盤中	子どもの探求を大切にしたい	東京
	岡村	富博	常盤中	理科教育のあり方	東京
	峯村	知栄	相森中	音楽教育の様子や子どもたちの歌声を視察する	東京
	片桐	秀一	黒坂中	技術家庭科教育	東京

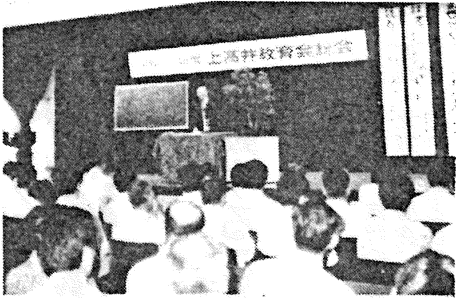
教育会総会と私

木村 忠美

「教育会総会で歌ってみな
いか」と音楽の先生に声をか
けられ、顔では照れていたも
の、内心はその気になって
いた。大勢の先生方の前で歌
わせてもらうのである。

新卒で上高井に来て三年た
つが、教育会総会といっても
前の年にどういふことをやっ
たのか、思い出せないのが実
際のところである。しかし、
今年、形はどうであれ、少
しでも総会に参加できたとい
うことで、いつもの年とは違
う気分で、先生方の話や講演
を聞くことができた。

先生方の発表は、自分自身
が同じようなことを経験した
り感じたりしているため、人
ごととは思えなかった。
問題があると言われている
子と接する場合、今まで教師



が、他の子にとってきた行動
や、あてはめてきた考えをす
べて持ち込むことはできない。
その子どもを十分みとった上
で、行動や考え方を修正して
いかなければならない。教師
自身が変わっていかなければ
ならないということは、私に
とっても永遠の課題である。

また、六年生を担任してい
て、人の目を変に意識した行
動がたいへん目につく、人を見
てから行動をおこすことが
多く、自分から動きだすとい
う子があまり見られないとい
うのが悩みである。どうした
らよいかというところは、経験
豊かな先生方に相談しながら、
検討中である。

研究委員会とともに

山際 正巳

下伊那で新卒の三年間を送
りこの上高井の地にお世話に
なつて一年間が過ぎました。
学級担任から図工専科へ。
この立場の転換は想像以上に
大きなものでした。図画工作
という週二時間あるかないか
だった学習が、私の総てにな
ったのです。十二回の自己紹
介。子どもの顔を覚え始めた
頃、研究委員会にて私が授業
をさせて頂くことになりました。

小委員会では、連日、私の
素案に対して、さまざまなア
ドバイスを賜り、少しずつで
すが、自分の狭い考えを見つ
め直せるようになりました。
夜おそくまで親身になって教
えて下さった小委員の先生方

に今さらながら頭の下がる思
いで。
授業に際しては森山明治森
上小校長先生より有難い講評
と指導を頂きました。自分の
経験の未熟さと一人よがりな
思ひ上がりにつづくことがで
きたのです。
仁礼という緑と爽やかな風
に包まれたこの地で、いかに
価値ある教材を見出し、週
二時間という限られた時間の
中で、子供たちに生きる力へ
と転化させていくのか。他校
の先生方の実践や発想に学ん
だり自分の日常の教室での実
践を見つめなおすことのでき
るこの研究委員会を心の支え
として努力して参りたいと思
います。
(仁礼小)

算数・数学同好会と私

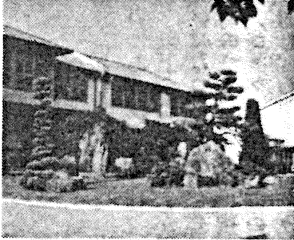
越 正行

上高井教育会における同好
会は、全部で十三あるのです
が、その中の一つに、算数・
数学同好会があります。
同好会というものは、その
道の志を同じくしている者の

を高めたいくための読み合わ
せを二つの柱としています。
今年度のすすめ方としては、
一、論文研究
これは、六十二年度の長野
県算数・数学教育研究協議会

をもち寄る。
これがまた、たまらなくい
い。算数・数学で子どもが育
つところとか、算数・数学教
育を通して、子どもを語れる
楽しみとなる。
教師という職業柄、どうし
ても専門的なものを考えてし
まうのですが、同好会という
ものは、その性格上、趣味の
ようなものであれ、仲間が集
ってやることで何とも楽しい
というところで考えていくこ
とが大切かと思われます。そ
の点、算数・数学同好会では
日頃、児童・生徒とやっつい
る算数数学にかかわりながら
数学そのものについて追究し
たり語り合うことが楽しりと
する仲間を、お互いに大切に
していきたいものです。
(東中)

学校づくり ⑮

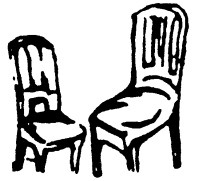


相森中学校

昨年四十周年記念式典が行
われ、ここに四十一年目の年
を迎えた。四十年の歴史の中
で培われてきた伝統と校訓と
しての自主・創造・壮心を受
けて、確かな実践をめざして
出発した。
学校づくりの基本として、

一、学校教育目標の具現のた
めの、組織と分担が有機的に
機能を発揮する。
二、教師集団の和と活性化
「教師こそ最大の環境、教育
は人なり」の自覚で、全職員
が実践で語り合える教師集団
は、学校づくりのカギである。
三、学校づくりと生徒指導
学校、学級を思う時、心が
なごむ学校、学級でありたい。
そこに生きる生徒は、明る
く、学校が楽しく、学ぶこと
が意欲的である。学級づくり
こそ生徒指導である。
四、教科指導と自主的活動
どの生徒もわかる喜び、知
る楽しさ、できるうれしさを
欲求している。このニーズに
応える指導と活動の場を考え
る。
以上のことをもとに、実践
を進めたい。教師は生徒が一
致して学校づくりにあたって
いく。その実践としては
1、学級副担任制による学級
生徒指導等の充実
2、自学・学級・学年の時間
の設定による、自主的創造的
な態度形成をはかる。
3、芝桜園、バラ園等の造園
活動を中心に、勤労精神と美
しさに感動できる生徒の育成
4、毎日朝十五分間の読書の
時間による豊かな知性と感性
を育てる。
5、子どもが燃える追究過程
のあり方を求める教科研究
等々が進められている。
(関野格正)

火鉢は七尺



感動すること、させること

宮澤 ゆかり

五月十三日。旅行の最終目的地―比叡山延暦寺。

そこでの植樹と合唱は、三年生一人一人の中に、しっかりと意識されていた。比叡山へ向かうバスの中では、繰り返し「大地讃頌」が歌われ、気分が昂まってくる。

根本中堂での法話、そこでの合唱。そこですでに、ひとつのことをやり終えたという気持ち、子どもたちの中にあつたのではないかと思う。しかし、本当の感動は、その後にあつた。

延暦寺会館で、自分が、今ここにいるということを考えて、自分のこと、まわりのことをみつめ直す。そして、一偶を照らす人になるというお話を聞く。この話がいかにか子どもたちの中にしみとおったかは、聞き終わった時、誰にいわれるでもなく、くずずしていた足をもとにもどしてあいたつができた姿に表われていると思う。そして、従業員の方々を前に、三度目の合唱をした。子どもたちの心の中に、何か感じるものがあつたので

少年老い易く学成り難し一寸の光陰軽んず可からず有名な「偶成」(朱熹作)の一節である。この詩にわたしが初めて出合ったのは、中学校三年生の時であつたと思う。理科担任の先生が何かの時間に詩吟を教えてやるというので、皆で(その時は男子だけだった)起立して、先生についてまねをしながら習ったことを思い出す。たった一時間だけだったが、不思議とその時の情景が忘れられず今に至っている。三十有余年も前のことである。当時音楽の時間何を習ったかなどということは、残念ながらあまり

詩吟を習う

高野 重治

り記憶にない。それなのにどうして一時間の詩吟が未だに忘れられずにいるのか。この詩の内容が当時の自分の心をとらえたのか、それとも、詩吟という新しいものとの出会いにあつたのか。

以上のようなことがきっかけになり、今から三年程前、町の公民分館活動に携わり、ブロックの文化祭等の活動を通し、わが町の詩吟クラブに

参加させてもらうことになった。教える者が、教わる立場に立つことも経験の一つ。何か自分にプラスになることがあるんじゃないかと勝手に思っている。前から習っておられる先輩諸氏に混じって練習を始めることになった。入会してすぐに習った詩は「詩道」(松口月城)である。

一忽ち覚悟浩然の情一詠自ら知る無限の情

編集後記

◇ 本校においてもOA機器導入の一つとして、昨年度三台のワープロの設置をみた。その後、校内ワープロ講習会を実施するなどして、初めてワープロに接した先生方も操作出来るようになり、今では職員会の印刷物もワープロ文字のものが多くなっている。

ワープロと手書き

返町 輝雄

◇ 本報において、先生、ワープロ文字ばかりよりも、先生の字の方が味があつていいですよ。と言われ、ハツとした。

私の拙い字、下手な字にこれほどの讃辞を戴いたのは嬉しいが、ワープロ文字はただの印刷物にすぎないと親がみていたのだらうかと考えさせられた。担任とのつながりの中に書き手の気持ちがこもっているおたよりを期待していた親の気持ちも解し得ないで、ワープロばかりがよいと合点していた自分の認識不足を思い知らされた。

◇ 「書は人なり」ワープロ時代とはいえ、その人なりの字を大事にしたいと思うこの頃である。(栗ガ丘小)

本年度一一九号から出発した教育会報。次のメンバーでお届けいたします。ご意見、ご希望をお聞かせください。

委員長 中村幸雄(豊洲小) 副 丸山武彦(豊丘小) 田中義人(栗ガ丘小) 望月千恵子(高甫小) 神林信雄(高山小) 山岸敬明(常盤中) 小林幹知(相森中) 羽田やよえ(井上小) 小山洋子(小布施中) 市川治利(旭ヶ丘小) 土屋雄治(須坂小) 島田一生(墨坂中) (係 土屋・望月)

◇ 学校はもとより、印刷物のおふれる娑婆といつても言い過ぎではない。教師とガリ切りは切り離せないものであつた。子どもたちへの教材資料、配っている。ところが先だつ

◇ 今年から私もなんとかわープロ操作を覚えて、おたより(学年通信)を書いて